葉　園飛
YE Yuanfei

さようならの形
デジタルプリント、シルクスクリーン

white cloth I
デジタルプリント

white cloth II
デジタルプリント

さようならの形

「私は死に直面した。」今まで感じたことのない感情を経験したことで、人間の本質的な部分に焦点を当てるようになっていった。抑えきれない悲しみと、言葉にならない別れの言葉が、このシリーズ作品を作るきっかけに なった。

最後会ったとき、白い布に包まれていたので、そっと布を持ち上げると、生気がない顔が見えた。それ以来、あの悲しい光景を忘れられず、心がずっと落ち込んでいる。夜、目を閉じると白い布が浮かんでくる。白い布はドアのようなもので、「ドア」の外は生、「ドア」の中は死だと思う。そのため今回の制作の中で、白い布をモチーフにした。人体と物の外に包まれた白い布は、死の象徴だ。私は自分を白い布に包むことで死を感じたいと思っている。もし自分がこのような「死」を体験すれば、人は死の世界に近づくことができるかもしれない。あるいは死が生者にもたらす苦しみを軽減することができるかもしれない。

作品の中のもう 1 つのモチーフは花だ。私はずっと花をモチーフとする作品を作ってきた。生命力が溢れる生き 生きとした美しさを表現している。お見送りするときに沢山の人たちが花を手向けに来てくれたが、花の命は一週間ほどだ。私は花が枯れていく姿を見て、またそこで命が終わっていくのを感じた。美しい花が目の前で枯れていく姿を見て、生死、感情、愛を深く考えた。花は枯れても、花を贈った人がもたらした愛は、この世で永遠に生き続けるのです。亡き者への想いや愛は凄く美しいものだと思う。花は過去の作品の中で「生命力の美しさ」を象徴していた。しかし、今は作品の花の意味が「生命が枯れていく哀しさ」と「届かない愛」に変化していった。

私は、花と白い布を通して、死に直面したときの生者の心情を表現したかった。このような言葉にならない感情を形として残すために作品を作っている。私の作品を通して、死に対する私の向き合い方を表現している。同じような経験をした人に共感してもらいたいと考えている。